

平成21年度
No. 4
11月27日

全連小速報

全国連合小学校長会事務局
東京都港区西新橋1-22-14
電話 03-3501-9288
発行人 会長 向山 行雄
編集人 広報部長 高橋 武郎

凜として立ち、志を高く掲げ、 理想の教育の追求を目指して

第61回全連小研究協議会熊本大会成功裡に終わる

平成21年10月22日(木)～23日(金) 熊本市総合屋内プール(アクアドームくまもと)と周辺会場

雄大な阿蘇山や藍より青い天草灘、築城四百年を迎えた熊本城等、良好な自然に恵まれ、多くの歴史的遺産を有する火の国熊本において、10月22日(木)23日(金)の2日間、第61回全国連合小学校長会研究協議会が全国から約3000名の参加者を得て、盛大に開催された。

本大会は、新しい主題のもとでのスタートとして2年目の位置付けとなる重要な大会となった。1日目は、開会式・全体会の後13の分科会・分散会に分かれて活発な協議が行われた。また、2日目には「自己の確立・かわり合い・夢と希望」を主題にしたシンポジウムが山下泰裕氏、中村勝子氏、後藤和文氏をシンポジストに迎え、高橋武郎広報部長の進行で行われた。

閉会式では、「火の国旅情」を合唱し、感動のうちに大会の幕を閉じた。

大会主題

新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる
日本人の育成を目指す小学校教育の推進

——自己の確立に努め、かわり合いを深めながら、夢と希望に向かう子どもの育成——

開会式

- 1 開会のことば 都筑 大会副会長
- 2 国歌斉唱
- 3 あいさつ 向山行雄 大会会長
速水 幸 大会実行委員長
- 4 祝 辞 文部科学大臣 川端達夫様
(代読 文科省初中局視学官 宮崎活志様)
熊本県知事 蒲島郁夫様
熊本県教育委員会教育長 山本隆生様
熊本市長 幸山政史様
- 5 来賓紹介
- 6 閉 式

志を高く掲げ力強く前進する

向山行雄 大会会長

全連小は、昨年の香川大会から大会主題を新しくした。「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進」という主題は2年目になる。

この4月から新教育課程の先行実施も始まった。各地域、各学校において着々と実践が進められていることと思うが、学校を変える良いチャンスだ。ここで十分な実践ができないと、後々まで影響をもたらすものでもある。新教育課程の趣旨が生かされるように、教職員をリー



ドして学校運営に当たっていただきたい。

さて、熊本県小学校長会は「凛として立つ校長の教育理念と指導性」を強調している。この「凛として立つ」という校長の姿勢は、私が就任以来訴えている「志を高く掲げよう」というスローガンと軌を一にするものである。「志を高く掲げる」とは、校長自身が学校づくりのビジョンを示し、その実現のための道筋を提示することである。道筋に課題があれば、それを解決する手立てを教職員にアドバイスし、共に解決することである。校長にとって厳しい時代が続いているが、校長が凛として立ち、志を高く掲げ、理想の教育を追求していくことで、その願いが周囲にも伝わり、学校を活性化させるものと思う。是非、ここ熊本に集まれた皆様が学校づくりについての成果と課題を語り合い、方策を得ていただき、明日からの学校運営に生かされることを願う。

全連小は、今後も小学校教育の充実のための条件整備を活動の大きな柱の一つとして関係省庁や国会議員に対して要望していく。また、中教審はじめ関係機関に引き続き意見表明をし、願いを伝えていく。引き続き、会員の皆様のご支援ご協力をお願いする。

結びに、本大会の開催にあたり数年にわたって周到な準備を進めていただいた、熊本県小学校長会の速見幸会長はじめ、熊本県小学校長会、九州地区小学校長会の皆様に敬意を表するとともに、心から感謝申し上げる。また、ご協力いただいた熊本県、熊本県教育委員会、熊本市、熊本市教育委員会をはじめ、関係者の皆様にご感謝申し上げます。本大会が会員の皆様のご協力を

得て所期の目的を達成できますこと、ご参会の皆様のご健勝とご活躍を祈念して挨拶とする。

自己の確立・かかわり合い・夢と希望

速水 幸 大会実行委員長

本大会は、新たな大会主題「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進」で開催された第60回香川大会の研究成果を受け継ぎ、香川の副主題「夢に向かってチャレンジ」を一步推し進める重要な大会であり、責務の重大さを感じている。

今の時代、子どもを取り巻く状況は殊のほか厳しく、多くの課題が指摘され、学校教育に対する期待が大きくなっている。だからこそ、失いかけた夢と希望の実現にたくましく立ち向かう子どもたちをはぐくむことは、未来を切り拓くことにつながると考える。そのためには、教育の不易の面である「徳・知・体」の調和のとれた力を育てることで自己の確立に努め、優しい心で他とのかかわり合いを深め、自分づくりを豊かにしていくことが、夢と希望に向かう子どもにつながるであろうと思う。

熊本大会では、大会主題を受けての副主題を「自己の確立に努め、かかわり合いを深めながら、夢と希望に向かう子どもの育成」とした。また、この大会を通して「凛として立つ校長の教育理念と指導性」という観点から協議を進め、課題を究明し、校長の職能向上を目指したい。「凛として立つ」とは、決して強圧的なトップダウンではなく、校長の率先躬行の実行力を意味するものであり、校長自らが自己を確立することを求め続け、人間的なかかわり合いを深める努力をしながら、夢と希望をもって前進する姿を見せることを意味する。

ご参会の校長先生が、自らの実践によって立つ教育理念を語り合い、信念をさらに強固なものにされるとともに、夢と希望に向かってたくましく生きる日本人の育成を目指して、自らの指導性を確認し合うことで、次の北海道大会につながる大会にしたい。

開催に当たり、ご指導・ご支援をいただいた関係の皆様にご心よりお礼申し上げます。

川端文部科学大臣祝辞代読（要旨）

文部科学省初等
中等教育局視学官 宮崎活志様

日ごろより、小学校教育の充実・発展のため、多大なご尽力をいただいておりますことに心より感謝する。

さて、新指導要領の改訂に伴う先行実施も、今のところ円滑に実施されている。これは、リーダーシップを発揮された校長先生のご尽力によるものと感謝する。

今日の研究協議や日々の実践によって、「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成」に向けた取組みを進めていただきたい。

今大会の成功と全連小のますますのご発展とご参会の皆様のご活躍を祈念して、お祝いの言葉とする。

熊本県知事祝辞（要旨）

熊本県知事 蒲島郁夫様

私は、教育者知事になりたいと念じながら取り組んでいる。小学生の時校長先生と一度だけ話をしたことがある。その時は、学校の図書館に遅くまで残っていたので「早く帰らないと心配されるよ。」と叱られたが、本を読んでいたことが分かり、感心してもらえた。それで、本を読むことが誇りとなって、読書感想文を書いた国語で小学校時代唯一の5の成績をとることができ、私の心の中に誇らしげに残っている。

そこで、3000人の校長先生に教育者知事としての思いを伝えたい。小学校時代5が一つの劣等生は中学・高校も落ちこぼれであった。

その後、苦勞をしながらも、学問することの楽しさを学び、小学生の時の政治家になりたいという夢に向かって大いに努力をし、今がある。この人生から教育者知事になろうと思い、子どもに人生について3つのことを考えてほしいと思った。1. 人生の可能性は無限大であることを熊本や日本の子どもに知らしめたい。2. 人生の可能性は無限大であるから、今が逆境であればあるほど、将来の喜びは大きい。3. 夢の大事さ、夢をもつことの素晴らしさ、夢に向か

って一歩踏み出すことの大切さを学ぶとともに、夢に向かって踏み出す時は120%の力で進むことを学んでほしい。

是非、担当されている小学校の子どもたちに夢は無限大であり、今が大変であればあるほど将来の喜びは大きいことを伝えてほしい。

熊本県教育委員会教育長祝辞（要旨）

教育長 山本隆生様

皆様には、日ごろより小学校教育の発展のためにご尽力をいただいていることに心から感謝申し上げます。

この4月から移行措置が始まったが、新しい時代の教育理念化を計る必要がある。本県ではこの3月に夢のある教育を実現するために、生涯学習社会の県政として3つの柱を立てた。

1つ目は、「くまもと『夢への架け橋』教育プラン」を策定し、5か年計画を推進する。2つ目は、確かな学力を身に付けることができるよう授業改善等を図る。3つ目は、環境教育の充実である。そして、これらのことを通して、子どもたちがそれぞれの夢の実現に向かって歩んでいくことを期待している。同時に、校長先生のリーダーシップに大いに期待している。

本大会のテーマ「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進」とサブテーマの「自己の確立に努め、かわり合いを深めながら、夢と希望に向かう子どもの育成」を踏まえた研究大会は、正に時宜を得た意義深いものと敬意を表する。

熊本市長祝辞（要旨）

熊本市長 幸山政史様

小学校に子どもを二人通わせている保護者の立場として教育の重要性を認識して取り組んでいる。

さて、本大会のテーマ「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進」とサブテーマの「自己の確立に努め、かわり合いを深めながら、夢と希望に向かう子どもの育成」は、時宜を得た大変重要なテーマであり、この大会を通してその

実現に向けてご努力をしていただきたい。

本市では、今年が第6次総合計画の初年度になり、「豊かな人間性と未来を切り拓く力をはぐくむ教育の振興」を掲げて学校教育の推進を行っており、生き生きと学べる環境づくりに取り組んでいる。

昨年は、熊本城の築城400年に当たり、お城の復元を図り、200万を超える入場者を迎えている。皆様にも、是非、熊本市の歴史文化に触れていただきたい。また、熊本市の水は全て地下水でまかなわれている。68万の大都市だが地下水ですべてまかなわれているのは、日本では熊本市だけである。その地下水ではぐくまれている食も豊かである。熊本の美味しいものも味わってほしい。

文部科学省講話（要旨）

文部科学省初等
中等教育局視学官 宮崎活志様

現在の文科省行政の現状を中心に話を進めたい。本年度から、新教育課程の移行措置の期間であり、先行実施するものと準備するものがある。移行期間では、指導計画を毎年組み替えるなどの準備を進めていかねばならない。振り返りも必要であり、校長先生のリーダーシップを発揮して取組みを進めてほしい。

さて、民主党政権の誕生により新しい行政が始まった。財務省への概算要求として約6兆円を計上しているが、国民の教育負担の軽減を図ることと、将来の日本を支える人材の確保と質の高い政策の重視を目的としたものである。今後、来年度の学校教育が滞りなく進められるよう準備をしていく。

それでは、資料を中心に説明をしていく。まず、学習指導要領の改訂についてだが、昨年の3月に改訂を行い、今年、高校と特別支援学校の改訂を行った。これまでは小・中、別々に制度の整備をしてきたが、第2章に「義務教育」を設けたように、学校教育法では大きくくりとして小・中を考えるようになった。高校も98%が受験し、ほぼ義務教育に準じる教育になった。一方、目の前の子どもたちはどこまで学んでいくのか分からないという状況の中で小学

校教育が進められている実態がある。今回改訂された高校・特別支援学校の学習指導要領を見据えて教育活動や子どもへの指導をしてほしい。

また、知識基盤社会といわれる現代において、「生きる力」の重要性は変わらない。だが、達成は十分ではなかった。「生きる力」とは何かということの十分な理解がなされていなかった。今後、子どもたちに「生きる力」を育てるために、基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を積極的に図ってほしい。

4月より、算数・理科を一部先行して実施している。移行期間中の授業時数の確保として週1コマの増をお願いしている。課題が生じた場合、教育や学校現場と相談しつつ、国民の立場で支援をしていく。今後とも、学習指導要領が円滑に進むようにお願いをする。

次に、学習評価について話をする。提言に基づき、児童・生徒の学習評価にかかわるワーキンググループで、6月より検討している。指導と評価の一体化という考え方は、基本的に変わらない。校長先生は、評価の規準や方法についての組織的な共通理解を図って、取組みを進めてほしい。

全国学力・学習状況調査についてだが、この目的の1つ目は、義務教育の機会均等と学力の向上を図る。2つ目は、各教委間の対比によって指導や政策の改善を図る。3つ目は、各学校は一人一人の児童の学習状況の改善を図ることである。なお、国立教育政策研究所で結果を踏まえた「授業アイデア集」と「事例集」も作成し、配布したので、是非活用してほしい。今後は、概算要求の段階で見直し、抽出4割や教科数を増やすなどの検討も行う。

最後に、現在進行形で進んでいる新型インフルエンザについて話をしておく。これまで、文科省より事務連絡として指示を出しているが、基本としては、不確実な情報による不安等をなくし、正しい情報のもと適切な対応をしていくことである。臨時休業は適切に行い、その間の生活面での児童指導の徹底を図り、教委と連携しつつ正確な情報に基づいて対応してほしい。

授業時数については、標準時数を下回る予想

がされるが、時数確保の措置については「小学校学習指導要領解説総則編」の第3章第3節「授業時数等」を参照しつつ、弾力的な取り組みをお願いしたい。また、臨時休業中の学習として、実態に応じた指導ができるような配慮をしてほしい。今後も情報を提供していく。

第1日 全体会

司会 佐藤増夫 大会実行副委員長

- 1 本部報告
- 2 大会主題・研究課題趣旨説明
- 3 大会宣言に関する提案

本部報告（要旨）

露木昌仙 対策部長

報告として、1の「第202回理事会」から8の「第1回小学校長会長連絡協議会」までであるが、まず、7の「常任理事による要望活動」について説明する。

7つの観点から48の項目を立て、要望書を文科省に出した。今年は政権交代があり、10月15日に概算要求の見直しで示されたところである。22年度の概算要求では、人的措置として、定数増5500人、とりわけ理数科教員の充実に向けて要求した。加えて、週2日のサポート先生1950人の配置要求をした。また、小学校1万校にスクールカウンセラーの配置も要求した。人的配置は一番大事だとの思いで要望をした。また、教育制度の抜本的改革に向けて必要な調査をするための概算要求があり、全国学力・学習状況調査は引き続き行うが、抽出率40%で教科数も検討するとのことである。

教職員定数改善について、教育関連23団体で11月4日に全国集会開催を目標に進めている。そこでは4つの要望をしている。1. 22年度予算で定数改善をしていくこと。2. 第8次の定数改善を進めること。3. 人材の確保。4. 義務教育国庫負担の拡充。新聞にもアピール記事を載せ、啓発した。

次に、各委員会の活動報告についてお知らせする。6つの委員会を設置し、調査・研究を行っており、順次、その成果とまとめを示してい

く。速報委員会やホームページ委員会は、素早い情報伝達をしている。会費としての負担金は完納されている。また、対策部や調査研究部の取り組みの結果等は「小学校時報」に掲載した。

以上、これまで行ってきた本部の事業についての報告とさせていただきます。



大会主題・研究課題趣旨説明（要旨）

長野了一 熊本大会研究部長

熊本は、よき教育者を多く排出してきた。また、よりよき子どもの成長をはぐくんできた。そして現在まで、「助けあい、励ましあい、志高く」の「熊本の心」として連綿と受け継がれてきている。

第61回熊本大会は、大会主題のもとに、香川大会の成果を受け継ぎ、更に一步前進する重要な大会と位置付けている。「自己の確立に努め、かわり合いを深めながら、夢と希望に向かう子どもの育成」の副主題を各協議会の根幹に据え、本大会の研究協議を通じて、学校経営の責任者である校長として、これからの小学校教育の在り方を究明していきたい。

<分科会・研究課題と研究の視点>

1 「校長の職務」

課題：創意と活力にあふれた学校づくり

視点①：子どもの夢と希望の実現を目指し、
創意あふれた学校経営の推進

視点②：ビジョンを明確にし、活力あふれた
学校経営の推進

2 「組織・運営」

課題：活力ある学校運営を進める学校づくり

視点①：学校規模を踏まえた校内組織編成を工夫し、活力ある学校運営に活かす取組みの推進

視点②：危機管理体制の確立を目指し、組織を活性化した学校運営の推進

3「学校評価・人事評価」

課題：学校評価、人事評価を生かした学校づくり

視点①：開かれた学校づくりを目指し、学校評価を生かした学校経営の推進

視点②：信頼される学校づくりを目指し、人事評価を生かした学校経営の推進

4「教育課程Ⅰ」

課題：豊かな心をはぐくむ学校づくり

視点①：倫理観や規範意識等をはぐくむ教育課程の編成と実施

視点②：道徳的実践力を高め、豊かな心の育成を目指した教育課程の編成と実施

「教育課程Ⅱ」

課題：確かな学力の向上を目指す学校づくり

視点①：基礎基本の定着を目指した教育課程の編成と実施

視点②：学習意欲を高め、確かな学力を育成する教育課程の編成と実施

5「現職教育」

課題：教職員の資質や能力を向上させる学校づくり

視点①：信頼される教職員を目指し、資質や能力を高めるための研修の推進

視点②：教師の指導力向上を目指した研修体制づくりの推進

6「生徒指導」

課題：豊かな人間関係を築く学校づくり

視点①：児童理解に努め、かかわり合う力の育成を目指した生徒指導の推進

視点②：家庭・地域・関係機関等と連携した生徒指導の推進

7「人権教育」

課題：お互いを尊重する心をはぐくむ学校づくり

視点①：子どもの人権を尊重し、自立と共生の心をはぐくむ教育の推進

視点②：人権意識を高め、実践力を培う教育の推進

8「健康教育」

課題：たくましい心身をはぐくむ学校づくり

視点①：心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進

視点②：望ましい食習慣の形成を目指す食育の推進

9「環境教育」

課題：環境に対する豊かな感性と実践力をはぐくむ学校づくり

視点①：教科・領域との関連を通して学ぶ環境教育の推進

視点②：多様な体験的な活動を通じた実践的な環境教育の推進

10「家庭・地域・異校種等との連携」

課題：家庭・地域・異校種等との連携を生かした学校づくり

視点①：学校と家庭・地域等との相互理解を深める連携の推進

視点②：幼・保、小、中連携を生かした教育活動の推進

特「教育課程Ⅰ」

課題：外国語活動・情報教育の推進

視点①：豊かな表現力やコミュニケーション能力をはぐくむ外国語活動の推進

視点②：情報活用能力や情報モラルを高める教育活動の推進

特「教育課程Ⅱ」

課題：キャリア教育・特別支援教育の推進

視点①：職業観・勤労観をはぐくむキャリア教育の推進

視点②：一人一人の子どもを大切にした特別支援教育の推進



第2日 全体会

司会 佐藤増夫 大会実行副委員長

1 研究協議のまとめ

2 大会宣言文決議

織田幹夫 大会宣言文起草委員長

◇ シンポジウム

研究協議のまとめ

野口正史 熊本大会研究副部長

11分科会・13分散会において、熱気あふれる充実した研究協議がなされた。凜として立つ校長の教育理念と指導性という視点を大切にしたい貴重な研究発表をいただいた校長先生をはじめ、運営等にご尽力いただいた役員の皆様、研究協議において真摯な教育実践に基づく貴重なご意見をいただいた校長先生方に衷心より感謝し、お礼の言葉を申し上げます。

どの分科会・分散会とも、参会の皆様これまで積み上げられた見識、そして実践をもとに、活気あふれる意見の交換があったと聞いている。

はじめに、大会主題へどのように迫っていったか、また、どのような成果があがったかについて報告する。

熊本大会では、2年目となった大会主題「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進」のもと、直面する困難な課題に果敢に立ち向かい、自らの夢と希望を引き寄せる子どもを育てていくとともに、我が国の文化と伝統を受け継ぎ、新しい時代の国際社会に主体的に生きる心豊かでたくましい日本人を育てる小学校教育の具体的な在り方を追究してきた。

そこで、本大会主題に迫るべく、「自己の確立に努め、かかわり合いを深めながら、夢と希望に向かう子どもの育成」と副主題を設定した。これは、19年度岡山大会の「夢を抱き」、20年度香川大会の「夢に向かってチャレンジ」を引き継ぎ、一歩前進したのものとして「夢と希望に立ち向かう子ども」を目指したものである。

大会副主題の中の3つのキーワード「自己の

確立」「かかわり合い」「夢と希望」について、各分科会・分散会において具体的な話し合いがなされた。

例えば、第6分科会においては、子どもに夢と希望を与える学校づくりを目指して、校長のリーダーシップが発揮された実践例が活発に出された。また、第10分科会では、子どもたちの夢と希望が膨らむような家庭・地域・異校種等との連携の実際が語り合われた。

このことにより、夢と希望に向かって逞しく生きる子どもの育成を目指した校長の指導性を確認することができた。

次に、熊本が主張する「凜として立つ校長の教育理念と指導性」の観点で協議が深められたかについて報告する。

例えば、第5分科会では、校長のかかわりとして、1単位時間の授業参観を行い、直接指導し授業力の向上を図ったり、日課表の工夫を行い児童と教師のふれあいの時間を確保したりするなど、校長のリーダーシップとして具体的事例をあげた貴重な発表があった。

また、ゆるぎない教育理念と信念をもって実践し続ける校長の姿勢が重要であり、進めるべき方向を明確にし、学校が活性化していく事例も数多く語られた。

この他にも、校長自らがビジョンを示し、そのビジョンの実現に向かって指導性を発揮する姿を随所にうかがうことができた。

校長の指導性が確実に発揮され、課題を具体的な仕事に変えて示すことは、凜として立つ校長の責務であることが明確にされたと思う。

以上、2つの視点から振り返ってみたが、今こそ校長一人一人が志を高く揚げ、理想の教育を追求していくことが大切であると考えます。

最後に、熊本大会の成果が、ご参会の校長先生の今後の学校経営に活かされ、子どもたちが自らの「夢と希望」に立ち向かっていくことを念じながら、全国連合小学校長会のさらなる発展を祈念し、熊本大会の研究協議のまとめとする。

大会宣言

全国連合小学校長会は、結成以来、我が国の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を重ね、着実にその成果をあげてきた。

知識基盤社会化やグローバル化が進む中、これまでの研究と実践の成果や課題を踏まえ、第60回香川大会より、大会主題「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を設定し、研究を進めてきた。特に、心豊かにたくましく生きる力の育成を目指す教育課程の編成・実施・評価・改善、そして、教職員一人一人に専門職としての自信と誇りをはぐくみ、実践的指導力を高め、その資質・能力の向上に努めてきた。

現在、社会は大きく変動し、様々な改革が推進されている。このような現状を認識し、未来社会に夢と希望をもち、たくましく生きる子どもを育てることが学校教育の責務である。

そのためには、美しいものを美しいと感じる感性や人としての温かさなどの「豊かな心」、自ら学び、自ら考え判断する力などの「確かな学力」、そして、健康で生き生きとした生活を送るための「健やかな体」、すなわち、「徳・知・体」の調和のとれた力である「生きる力」をはぐくむことが重要である。今、その力を自己の確立へとつなげ、他とのかかわり合いの中で自分づくりを豊かなものにする実践と、凛として立つ校長の教育理念と指導性が求められている。

私たち校長は、熊本大会における副主題「自己の確立に努め、かかわり合いを深めながら、夢と希望に向かう子どもの育成」を目指す小学校教育の推進に全力を傾注することにより、国民の信託に応えようとするものである。

ここに、第61回全国連合小学校長研究協議会熊本大会の総意に基づき、次の決意を表明し、その実現を期する。

記

- 一、新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成
- 一、自己の確立に努め、かかわり合いを深めながら、夢と希望に向かう子どもの育成
- 一、確かな学力の向上と創意工夫ある教育課程の編成・実施・評価・改善
- 一、道德教育を中核に据えた豊かな人間性の育成
- 一、学校の自主性・自律性の確立と保護者や地域住民との連携の促進
- 一、安全で安心できる教育環境づくりと家庭や地域社会の教育力の向上
- 一、校長自らの研鑽と教職員の資質・能力の向上を図る現職教育の充実

右、宣言する。

平成21年10月23日

第61回全国連合小学校長会研究協議会熊本大会

シンポジウム

『自己の確立・かかわり合い・夢と希望』

(要 旨)

シンポジスト

東海大学体育学部長 山下泰裕氏
スペシャルオリンピックス日本・熊本参与

中村勝子氏

学校法人中九州学園理事長 後藤和文氏

コーディネーター

全連小広報部長 高橋武郎

高橋 夢と希望との出会い、夢と希望の実現を阻むもの、校長や学校教育へ望むことについてお一人ずつお話をいただきたい。

後藤 私は、鹿児島大学で絶滅から動物を守る研究をする中で、1990年、死んだ牛の精子を人



工的に卵子の中に入れて赤ちゃんを誕生させた。アメリカの学会で発表した際、新聞記者の問いに、死んだマンモスを生き返らせることもできると答えたのがきっかけで、夏のシ

ベリアを訪れ、新鮮な遺伝子をもつマンモスを見つけ、復活させる夢を追い続けている。

本日最も話したいことであるが、人の体は、受精卵が細胞分裂するときには皆同じ細胞であり同じ遺伝子をもっている。細胞が置かれた環境によって他の細胞とのかかわり合いで遺伝子のスイッチの入りが変わり、心臓や脳、肺などのいろいろな部位ができていく。心の働きはどうかというと、人の体も心もメカニズムは同じで、心の確立、体の確立、自己の確立は細胞の中の遺伝子の働きである。

中村 私がスペシャルオリンピックスと出会ったのは38歳の時である。知的障害のある人は、



絵でも音楽でもスポーツでも、周りがちょっとサポートすれば驚くほどの力を発揮する。その力をスポーツで引き上げようとするのが、スペシャルオリンピックスである。昔、体育教師をしていて、スポーツはやる気と勇気をもっていればやれるということを知っていたので、それはできると思った。

8年後、ダウン症の女の子に参加した。結果は、予選で10点満点の4点、決勝で4.75点を得、銀メダルを獲得した。あなたの障害で4点から4.75点は相当の努力が認められるから、だから銀メダルという発想。この価値観をぜひ日本へという思いで、スペシャルオリンピックスの組織づくりに仲間と奔走した。1995年、スペシャルオリンピックス日本をつくり、現在、各県にでき、2005年には冬季オリンピックができるまでになった。

スペシャルオリンピックスで最も大切なのは、日常のプログラムである。地域で、ボランティア、コーチ、アスリートが一つの競技を共有しながらそれぞれが成長し、理解し合う。アスリートたちと接することで人の尊厳に気付く。サポートが必要な人とサポートできる人が力を合

わせれば、一つとなれる。健康な子どもたちには、自分のためではない、サポートできる人間を目指す心を教えてやってほしい。アスリートたちはサポートさえあれば、何でもできる。

現在、有森裕子さん、山下泰裕さんといったスポーツ界の頂点を極めた方々に理事長、理事になっていただいている。さらにその道の専門家へとつながっていくことを夢見て活動が続けたい。

山下 私が柔道と出会ったのは、43年前の小学4年生の時だった。小学校時代、柔道は遊びの延長でしかなかった。

そんな私が、中学校で素晴らしい恩師に出会って変わった。試合の勝つための技術、体力、戦術だけではなく、柔道をする人間としての生き方、心構え、柔道だけではなく勉強もそれ以外のこともしっかりとやらなくてはいけないといった教えを繰り返し受けた。



中学2年の時、将来の夢という題で「僕は柔道が好きだ。僕の夢は、柔道選手としてオリンピックに出、メインボールに日の丸を仰ぎ見ながら君が代を聞いたら最高だろうなあ。現役を終わった後は、海外に出て世界中に柔道の素晴らしさを広げられるような仕事をしたいなあ。」と書いている。オリンピックの夢は実現し、NPO法人を立ち上げ、世界の国々で柔道を教えている。中学2年の夢が実現している。自分は何と幸せな人間だろう、何と恵まれているのだろうと思う。しかし、社会を見ても多くの子どもたち、若者が夢をもてずにいる。これは我々大人の問題ではないかな、と思う。

今から25年前、現役を引退し、柔道の指導者としての道がスタートした。自信满满、やる気十分だった。しかし、自分自身を磨くことと人を育てることは違う。ある時、やる気のない問題児と思っていた学生が白血病の子どもに献血

をし、何度も見舞い、激励の手紙を送っていることを知った。人を評価するには、一面だけでなく多面的に全体を見ることが大切であることをこの学生から教えられ、私自身の指導の考え方が学生の夢や希望を阻んでいたことに気付かされた。

もう一つ、私には子どもが3人いる。二男が自閉症で知的障害がある。何倍も努力してきた自負があるが、努力した結果が実ったのは、多くの人に支えられてきたからである。自閉症の二男を通して生き方、考え方が変わっていった。もし、二男が健常者であったら、物事がうまくいかないと人のせいにするような、最もなりたくない醜い人間になっていたかもしれない。今後、自身を戒めながら教育者を目指したい。

後藤 子どもたちはいろいろな能力をもっている。その能力を伸ばすにはどのようにしたらよいか。私たちのもっている能力、つまり遺伝子は環境によってスイッチの入りが違う。学校教育で先生たちは最も大切な人的環境である。その先生方が子どもたちにどうかかわるか、どういう声かけをするかによってそれぞれの子どもがもっている遺伝子のスイッチの入りが違ってくる。ここが最も重要なところである。分かりやすい例を言うと、植物の種を砂漠という悪い環境に置いても花は咲かない。環境が悪いから遺伝子のスイッチが入らないのである。畑に持って行き、水を与えると、順番にスイッチが入り、芽が出て、葉が出て、花が咲く。すべての生物は環境の影響を受けて能力を発揮する。環境と心、この二つが子どもの能力を開花させる要因である。だから、子どもにふさわしい環境を用意し、心に響くような働きかけをすることが重要である。遺伝子のスイッチが入ったかどうかは見えないが、遺伝子に変化があれば、必ず子どもの表情や行動、言葉遣いの表現に変化が出る。だから、昔から言われているように、子どもをよく観察することが大事。そして共感することで、子どもの遺伝子にスイッチが入る。

高橋 最後に、夢と希望に向けて校長、学校教育に望むことについてお話をいただきたい。

後藤 子どもたちにはたくさん遊んでほしい。たくさん遊ぶことから夢や希望が広がってくる。遊びを通して豊かな感動体験をしてほしい。ナイスシュートはナイスストライから。子どもの時間を大切にしてほしい。急いで大人になってほしくない。幼少の経験が人生の大きな決断のポイントとなる。校長先生方には、幼心を忘れず周囲を励ます人になってほしい。信じて見守る人がいると勇気もてる。成長には時間が必要なので、子どもを促成栽培しないこと。教育を科学する校長になってほしい。

中村 不必要な人は誰もいない。アスリートと一緒に何かをやることを増やしてほしい。教育とは体験であり、本人が感じることが大切である。アスリートたちは心にたくさんのことをもっているが、それを伝えたり一度にたくさんのことを理解したりすることが難しい。是非、寄り添って一緒にやってほしい。

山下 子どもが生き生きと夢をもって輝いて生きていけるようにすることが大人の責務。生きることの素晴らしさ、夢を語ることが教育に携わる者の務め、自身が夢をもち、生き生きと生きていきたい。



閉 会 式

1 開 式

2 あいさつ

向山行雄 大会会長

速水 幸 大会実行委員長

福田信一 次期開催県代表

3 閉会のことば

富田幸一 大会副会長

第203回 理 事 会

10月21日（水）午後1時45分開会

熊本全日空ホテルニュースカイ

進行 両角庶務部長

1 開会のことば

都筑副会長

2 会長あいさつ（要旨）

向山会長

理事会資料に基づき話をさせていただく。まず、「文科大臣・同副大臣の発言に注目」については、政権交代の大変さをひしひしと感じている。新大臣も慎重に動き出している。一番注目すべきは22年度の概算要求・補正予算である。中でも一番重要なのは定数改善の行方である。

5500名の定数改善はそのまま踏襲されるが、どういう使い分けにするか、少し変わってきている。更に、非常勤職員が3万から2万人に減った。1万人のスクールカウンセラーの配置はそのままである。今後の査定を通して決定されるので予断を許さないが、今後とも、運動を通して働きかけをしていきたい。そのほか、全国学力学習状況調査や教員免許更新制度等についても、慎重に見て行かなければならない。その他の政策についても、これまでの経緯を踏まえて是非やってほしいという注文を出している。

次に、新型インフルエンザ対策だが、重要なのは、閉鎖をして授業時数をどう確保していくかということある。そこで、休業について確認しておきたい。学校保健安全法第20条に「学校の設置者は、感染症の予防上必要があるときは臨時に学校の全部または一部の休業を行うことができる」とあり、根拠法となる。どういう時に実施するかは、昭和42年の旧文部省通知の臨時休業の目安「欠席率が平素の欠席率より急速に高くなったとき、または羅患者が急激に多くなったとき」による。従って、どれくらいの日数になるかは都道府県や市町村によって異なる。休業になった時の授業日数の取り扱い、新学習指導要領総則編第3章第3節の「災害や流行性疾患による学級閉鎖等の不測の事態により当該授業日数を下回った場合、その確保に努力することは当然であるが、下回ったことのみをも

って学校教育法施行規則第51条及び別表第1に反するものとはしないといった趣旨を制度上明確にしたものである」との解説がある。この軸足を押さえて、地区の校長会や教職員や保護者への説明をしてほしい。

3点目は、新教育課程の先行実施にかかわる内容についてだが、40年ぶりに教育内容を増やす改訂であるということは、非常に怖さも伴っている。算数と理科は21年度中に補助教材等で示されている新たな内容を扱わなければならないのに、補助教材を配りっぱなしにしていないか。指導課程に位置付けて履修しているかどうか、担任が取り組んでいるかどうか、チェックするシステムが弱い地域がある。万が一、この新たな内容を年度末までに扱っていなかったら履修漏れになる。そのことをメディアがおもしろおかしく取り上げたら、学校への信頼はかなり損なわれる。このことは、数年前の高校での日本史の未履修に対するマスコミの報道の姿勢が物語っている。まだ半年あるので、チェックシステムを考えて取り組んでいただきたい。

4点目は、9月24日に厚労省が出した臨時休業に関する基本的な考え方についてだが、積極的臨時休業と消極的臨時休業の2種類を示した。積極的臨時休業は感染の初期の段階で地域全体で封じ込める際のもので、ほとんどやっていない。消極的臨時休業は、目的に応じて短縮するということなので、その短縮期間は3日間から7日間と県によって異なっているし、規定なしの所もあるので、都道府県によって差があるのが現実である。

5点目は、鳥取地裁の市町村別・学校別開示容認判決に対して、全連小として鳥取県教委に対して意見表明をした。

明日からの熊本大会での分科会・分散会では学校経営や学校運営の視点で充実した協議ができるよう、積極的な発言やご協力をお願いする。

3 報 告 司会 富田副会長

(1) 会務・事業・活動の概要 両角庶務部長

(2) 会 計 中川会計部長

・基金管理状況

・負担金納入状況

(3) 研究大会について

・熊本大会について 速水大会実行委員長

・北海道大会について 福田北海道会長

開催日：平成22年9月30日・10月1日

例年より1ヶ月早い開催となる。熊本大会の成果を受け、「ふるさとに誇りをもち、夢や希望に向けて挑戦する子どもの育成を目指す学校の在り方」を副主題に、分科会の充実こそ最大のおもてなしと考え、計画的に準備を進めたい。

(4) 要望活動について 露木対策部長

・平成22年度小学校教育の充実に関する文教施策並びに予算に関する要望

・教職員の定数改善及び少人数学級の実現に関する要望

(5) その他

・日韓教育文化交流について（報告）

向山会長

4 情報交換 司会 野崎常任理事

(1) 「教育課程編成の実施状況と課題」について

調研部長 政令指定都市小学校研究協議会横浜大会資料より、「基礎・基本の定着」「授業時数増加に対応する取組み」について①教育委員会の指導内容・取組み②各学校の取組みの現状③校長会の支援と課題のアンケート結果を情報として提示する。

①については、教育委員会主導で管理運営規則を改正し、授業時数の確保、理数常勤講師の配置等の人的支援、資質向上研修を行っている市も多い。また、市独自のプランや教材の開発、学力調査の実施、人的支援の実施をしている市もある。②については、学力調査を活用しながら研修の充実を図る、週時数の見直し、長期休業の見直し等各校で創意工夫している市が多い。③については、情報の提供、啓発活動を行っている。独自の研究・研修を実施し、教育委員会

と連携しながら、調査を実施し、例えば帯時間の設定等の議論の参考にしている市もある。

静岡 校長会として206日を年間授業日数の基準として運用している。夏休みを短縮することで、結果的に週時程で6時間授業が少ない状況となった。日数増加により教員が子どもと向き合う時間、テストや成績処理時間の確保ができていない。課題は夏休み短縮傾向のため教員が休暇を取りづらい状況にあることである。

京都 京都市は年間205日の授業日数とし、時数を確保している。京都府全体では市や町で対応が違う。移行措置の対応のために管理運営規則を変えて夏休み短縮で日数を確保している学校、週時数を増やしている学校と様々である。子どもと向き合う時間の確保や下校時刻の問題等の課題に対応している現状にある。

兵庫 神戸市では各学期に1日ずつ3日間日数を増やし、併せて週1コマ増やし、特別活動を入れて29時間とした。下校時刻が迫り、子どもと向き合う時間が取れないこと、また、異動の内示、辞令の関係で、1学期を1日早くしたために準備不足で新年度を迎えざるを得ない状況が生じた等の課題がある。

(2) 「新型インフルエンザへの対応」について

北海道 休校は小中合わせてかなりある。校長会としては未履修がないように教育委員会と連携を取って早めに情報を流すようにしている。

秋田 どの学校が学年・学級閉鎖になっているか、新聞に毎日掲載される。同じ学級の再開も起きており、時数確保が課題である。

大阪 堺市では各校が10時までにパソコンに入学し、情報を市内全校で閲覧できるようにしている。宿泊行事等のキャンセル料を払わざるを得ない状況も出ている。

沖縄 夏休みに爆発的な流行があり、本人は1週間の出席停止、家族が一人でも感染したら出席停止の措置を講じて効を奏している。

5 連絡・その他

(1) 広報部より

高橋広報部長

(2) 全連小ビル完成・移転

大内事務局長

6 閉会のことば

都筑副会長